

新規領域の提案		
バイオ技術の応用による革新的技術の開発	(金井)	バイオ技術は新しい技術で、色々な分野の高度化に貢献できると思われませんが、医療機器分野では特に重要で、現在行き詰まっている人工臓器などの唯一の解決法と考えられている。具体的には組織・再生工学など世界的に研究・開発されている分野については、遅れてはいるがまだ追い越すことができるし、将来の医療機器としては最重要課題の一つとなっている。(金井)
ライフサイエンスのための製造技術 (製造技術部門の中の「製造技術の新たな領域開拓」の中の小領域として追加)	(畑村)	重点4分野に入れられているライフサイエンス分野の発展を支える具体化の手段に目がゆかず、末端の効果のみを追い求めたため、現在のバイオテクノロジーの機器やそれを作るソフトを含めた技術はほとんど米国に牛耳られている。真に重要な分野はそれを実現するための具体的手段の開発と車の両輪とならなければならないから。(畑村)
エネルギーと食料	(畑村)	国家戦略の基本は、国民生活の基をなすエネルギーと食料を常に視野に入れなければならない。現在の戦略では、エネルギーを他の領域として入れてあるが食料についてはライフサイエンス分野の中に入っているだけである。今後の環境の悪化と発展途上国の人口爆発を考えると、食料問題が重大な問題となる怖れは大きい。食料の確保の問題を、ライフサイエンスの方向からだけでなく環境劣化との関連で取扱う見方が必須と考える。(畑村)
革新的製造技術を支える知的基盤の整備	(平尾)	他の7分野が取り組むべき目的対象がはっきりしているのに対し、「製造技術」は全てを支える概念が基調として意義付けられている様である。その意味で基盤整備に類するものは、当分野の主点テーマとして、強く表明する必要も有るのではないかという視点。 意見交換の結果、備考に知的基盤の整備が挙げられたが、この欄の他の5項目の様が仕組み作りに属するものではなく、具体的に金と腕力を要するものであり、時間と根気の要る、しかも完成させた技術の信頼性を高める上で基本を為すものである。 「知的基盤整備」で既に別途プロジェクトが走っているが、その答申を受けて腕力を振る為として、認知する必要があると考える。(標準物質、平衡状態、基礎物性、触媒、等。)(平尾)